

第12回 水と光のまちづくり推進会議資料

2021年1月14日

光のまちづくり推進委員会

動き

- 2004年 光のまちづくり企画検討委員会設立
光のグランドデザイン（光のネックレス構想を含む）策定
- 2010～2019年 2020構想スタート
 - ➡ 第1フェーズ(2010～2013)、第2フェーズ(2014～2016)、第3フェーズ(2017～2019)
 - ➡ 「水と光の首都大阪」のブランドを確立

成果

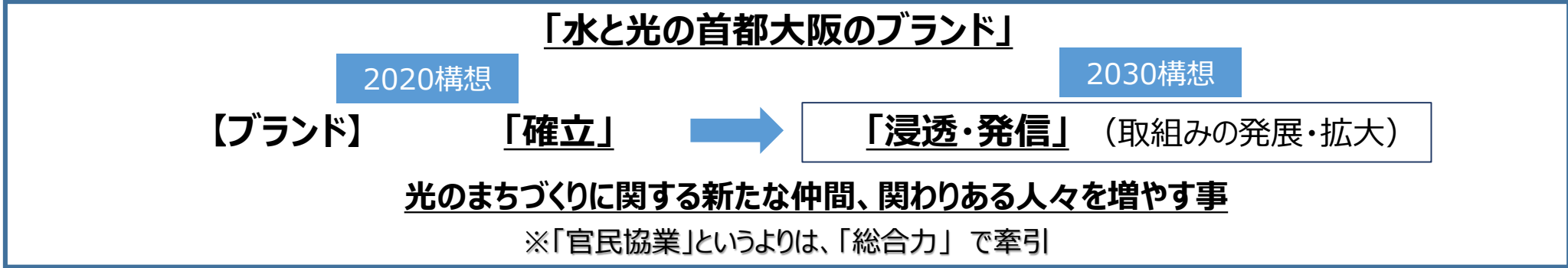
- 水と光の首都大阪に向け、中之島エリアにおいて官民一体となった世界を魅了する夜間景観が形成。
- 中之島での成功事例を他エリアに拡大 ➡ 「エリア別光のまちづくり検討資料」の策定、
「光のまちづくり技術指針(第2版)」(改定)
- 永続的な夜間景観の形成 ➡ 「メンテナンス検討資料」の策定・公開
- 大阪市景観計画において、「大阪光のまちづく2020構想」などの関連計画と整合を図りながら、
夜間景観形成に取り組むよう定義された。

課題・予見

- 機器更新の財源確保、永続的な夜間景観形成のための設備維持・更新

2030年に向けた方向性の整理

○これからの10年は、「水と光の首都大阪」をよりオンリーワンに輝かせ、期待感を喚起していく必要がある。



【前提】

水と光の首都大阪
(歴史) × (社会) = (新しいものの創出)

光が「水の都」に果たすべき役割は、「大阪らしさ」を際立たせる事であり、その結果、「水の都・大阪」を通じて、「光」への関心を高め、光のまちづくりに繋げていく事。
単に水と調和した景観を生み出すだけでなく、新たな文化や産業・技術にスポットを当てる事が光の意義。



○光のまちづくりにより、新たな文化や産業・技術にスポットを当て、新たな仲間、関わりある人々を増やす。
→ ブランド価値を高めつつ、まちの人々を牽引

大阪光のまちづくり2030構想
取組の方向性（案）

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸(仮称)」の創出 → 3
2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成 → 4
3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり

||

上記 1 ~ 3 の推進にあたり、光のまちづくりにおいてもSDGsに貢献する必要がある

「SDGsに向けた光のまちづくり」の定義・実践 → 5

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸(仮称)」の創出

(1) 中之島夜間景観の質の向上

- 夜間景観の価値を可視化し、重要さを明確に整理したうえで指針を示す。
- 中之島の風景は消滅を前提にせず、価値が高まれば、観光、まちの発展に繋がる。つくるにとどまらず、質を高め、価値を継承できるよう検討する。

(2) 中之島の新たなエリアへの夜間景観の展開

- 中之島では今後、大阪中之島美術館、未来医療 拠点の建築が予定されており、さらに2031年には、なにわ筋線の開業により、新たな駅前開発が予定されている。今後、開発される新たなエリアに夜間景観を展開しつつ、なにわ筋線の開通に向け、機運を高める。

(3) 海と川を繋ぐ取組み

- 大阪は古来、水際に発達した水都であり、水運交通網の発達が、大阪の基盤となる文化・産業・商業などをもたらしてきた。
- 中之島とベイエリアを繋ぐまちの活力の創出が、大阪らしい夜間景観の創出となる。中之島は産業・歴史などの源流であることから、海も含めた一体的発展を目的に、海と川を包含する『水と光の東西軸(仮称)』という新たなキーワードを創出、『水と光の東西軸(仮称)』で統一したコンセプトを設定し、展開する。



光のまちづくり推進委員会におけるターゲットエリアおよび『水と光の東西軸(仮称)』のイメージ

<光の都市軸>

- | | |
|----------|---|
| 1) 光の東西軸 | 東は大阪城エリア、天満・桜ノ宮エリアの一带とし、中之島を経て、西はUSJ、天保山へと続く、大川・堂島川・土佐堀川に沿った軸。咲洲・夢洲地区までを含む。 |
| 2) 光の回廊 | 光による新たな魅力創出を担う面的な広がり。個性的な近代建築や、緑豊かな公園などを対象とする。 |
| 3) 光の南北軸 | 大阪駅周辺エリアを北端とし難波・湊町、更には天王寺・阿倍野までを南端とした御堂筋を中心とする軸線。 |
| 4) 光の庭 | 八百八橋と呼ばれる大阪の資産である多数の橋が架かる、水上の回遊動線。 |

2025年の大阪・関西万博に向けた重点事業と位置づけ、期待感を喚起させるため、プロジェクト等と連携する。

2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成

（1）エリアの個性を際立たせる夜間景観創出

- エリアマネジメント団体との対話により、エリアの個性を際立たせ、魅力の再発見に繋げる夜間景観を創出する。
中之島エリアに次ぐターゲットエリアは御堂筋、ベイエリア、うめきた、大阪城公園周辺、天王寺・阿倍野周辺とする。

（2）行政計画等との連携を図る

- 大阪市では地域の特性を活かした景観誘導を行う「大阪市景観計画」および「大阪景観読本」において、夜間景観の誘導方策が位置付けられており、引き続き連携を図りながら推進する。
- 今後の御堂筋の目指すべき姿を示した「御堂筋将来ビジョン」など、各エリアの各種ガイドライン等と連携を図りながら推進する。

3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり

- 大阪の景観を創りあげてきた人々がWEBサイトを紹介したくなり、また、各種情報を提供したくなるプラットフォームづくりを目指すこととし、WEBサイトのリニューアルを実施。

以下の情報を棲み分けたWEB発信をすべく整理。

- ①従前からの協議に基づく取り組みや成功事例など、既存情報の発信
- ②今後まちづくりを推進するための発信

「SDGsの達成に向けた光のまちづくり」の定義

○前述1.~3. を推進していくにあたり、光のまちづくりにおいても、持続可能な社会を実現するため、グローバル目標であるSDGsの取組みに貢献する必要がある。夜間景観に繋がるテーマを以下のとおり厳選し、2030年だけでなく、2025年にも目標を据え、今後推進する。

- 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8. 働きがいも経済成長も
- 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 12. つくる責任つかう責任
- 17. パートナーシップで目標を達成しよう



○持続可能な社会を実現するため、SDGsの取り組みに貢献しつつ、大阪光のまちづくり2030構想(案)に基づき、第1フェーズ(2020~2024年度)、第2フェーズ(2025~2030年度)を下図のとおり設定。

官民連携による光景観形成・継続 に向けた基盤づくり	2020	2021~ 2023	2024	2030年度
<p>1. 海と川を包含した「水と光の東西軸(仮称)」の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中之島の夜間景観の質の向上 ○中之島の新たなエリアへの夜間景観の展開 ○海と川を繋ぐ取組み 	企画・検討			<p>大阪 都市格 の向上</p>
<p>2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エリアの個性を際立たせる夜間景観創出 ○行政計画等との連携 	企画・検討			
<p>3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○光のまちづくりのプロモーション&マーケティング 	WEB改定	情報共有・発信		